

「各文字の手引き」

《くのなかま》く・へ

形がにているので、書きまちがい・読みまちがいが多い文字です。

右左を逆にしてしまうなどしたときには、「顔はどっちむきだった？」と声をかけてみましょう。

《いのなかま》い・り

微妙な傾きや丸みをおびた線を書くことが難しい子のために、ステップをふんでいます。

《このなかま》こ・に

右手の人差し指と親指をL字に広げて「くるっ、くるっ」と左右に動かし、こまが回る様子をしめしてみましょう。

《しのなかま》し・も

右左を逆にしてしまうなどしたときには、「犬はどっちむきだった？」と声をかけてみましょう。

「し」と「も」では「も」のほうがはらいに丸みがあります。ちがいを意識するために「も」の書き方は「くるっとしっば」という言い方も考えられます。

《ののなかま》の・め・ぬ

「め」「ぬ」の書き順②部分は「でっばってくる」などの言い方も考えられます。

《qのなかま》す・む

右左の区別ができない子には②「みぎまがりせん」の代わりに「はんたいまがり」（丸のでっぱり部分の反対に線が曲がるから）という言い方でもいいでしょう。

《よのなかま》よ・ま・は・ほ

「は」「を」「は」「ほ」を「は」と書いてしまったりする子があります。練習のはじめには、四文字の右側部分の違いを子ども自身に発見させてみましょう。

《つのなかま》う・か

「か」のたてぼうをななめに書くことが難しい子のために、ステップをふんでいます。

《つのなかま》つ・ら・や・ゆ

「つ」の部分にも微妙な違いがありますが、まずはしっかりと「つ」が書けるように練習しましょう。特に「ゆ」は「つ」より丸みをおびた形になります。

《うのなかま》ふ

「う」に「てんてん」と言って覚える子もいます。必要に応じて風船がしぼんでいることを強調してみましょう。

《くのなかま》て・ひ

「て」「ひ」それぞれのみかづきれもんの線をとめる位置を点をうってしめしてあげましょう。

《このなかま》と・を

「と」も右左を逆に書いてしまうことが多い文字です。「れもん」の形をしめすときには、いつも子どもと同じ向きに座って左手を使うようにしてください。

《7のなかま》ろ

ろ・る・わ・ね・れ・そ・み
組み合わせる文字がしつかり書けるようになってから取りかかりましょう。

《んのなかま》ん・え

ひらひらの部分が「ん」と「え」では異なります。絵の中でそれぞれの形を練習しましょう。

《十のなかま》お・あ・せ・け・さ・き・た・ち・な

ここではそれぞれ文字の線の傾きごとに「おはなの+」「さるの+」「なすの+」と分けています。それぞれの文字がどのなかまに入るのかグループ分けさせてみるのもよいでしょう。

「x」「y」を「x」「y」のような書き方もありますが、書くときには「x」「y」と書くようにしましょう。